

DGAKI-JSA 2019 報告⑥

千葉大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学教室
飯沼智久

【舌下免疫療法に関して】

2019年の11月29日と30日に開催したDGAKI-JSA Joint Meetingに参加させていただきましたので、この場を借りてご報告させていただきます。

日本人参加者皆さんの意見も同様でしたが、今回のような小規模での国際交流・ミーティングはとても刺激になり、多くの勉強をさせていただきました。日独の参加者は、お互いに気になる部分があればすぐ質問を飛ばし、Meetingの時間外でも多くの議論を交わせたと感じております。私はドイツからの参加者であるOliver Pfaar先生と面識がありました。EAACIのタスクフォースの一つに花粉飛散量の標準化を目指すものがあるのですが、Pfaar先生が責任者をされています。千葉大耳鼻科として参加しているため、飛散量のことや耳鼻科疾患含めて多くの議論をさせていただきました。その中でも日独の違いを感じましたので御紹介させていただきます。

さて、発表内容として私が頂いたお題は免疫療法になります。初めに日本の花粉症や舌下免疫療法の歴史をご紹介させていただき、問題点への対処ならびに当科が行っている基礎的な取り組みをお話しさせていただきました。

議論となった点として、日本と欧米、すなわち日独には免疫療法のコストの違いがあります。日本では舌下免疫療法は保険収載されており、月に1500円から2000円程度で行うことが出来ます。一方、欧米では国や製品によって保険でカバーされていないものが多く存在します。幸いなことにドイツでは舌下免疫療法に関して販売されている製品は全て保険でカバーされているのですが、それでも年に1000ユーロ（12万円ほど）はかかるとのことでした。コストは免疫療法の普及に大きな障害になっているようです。

続いて、免疫療法の普及や適切な使用の補助としてデジタルデバイスの利用を御紹介させていただきました。ヨーロッパでのアレルギー性鼻炎のガイドラインであるARIAでは、新しい試みとしてスマートフォンアプリを利用して多くのデータを集めガイドライン作成に使用しています。日本語版は当科で翻訳を担当させて頂き倫理審査を通し、リリースすることが出来ました。広く利用者を募り、日本のデータの解析を行いたいと考えております。また別のデジタルデバイスとしてGoogle TrendsというWeb上のサービスを利用すると、世の中の興味・単語の検索数が分かります。調べてみると、ドイツや世界的には「舌下免疫療法」は流行が過ぎ飽和しておりますが、日本ではまだまだ上昇傾向にあります。このようなデジタルデバイスで世の流れを捉えることは今後の研究課題や方向性を知るためには有効であると考えております。基礎の分野も含めて様々なご質問を頂き、汗をかきながら一つ一つ回答させていただきました。

末筆ではございますが、JSA理事長である出原先生を始めとし国際交流委員会委員長である浅野先生や関係者の先生方に御尽力頂き、このような機会を与えていただきましたことを深く感謝いたします。